

I 研究主題・副題

主体的・対話的で深い学びのできる「たかはるの子」の育成

～「深い学び」につなげるための指導法の研究～

II 主題設定の理由

本研究所では、一昨年度「視覚化」と「発問」の工夫による全員参加の授業づくりを通して、主体性を持ち、対話的な学びのできるたかはるの子の育成を目指してきた。昨年度は、各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせる授業づくりの研究に取り組み、各教科等における目指す児童生徒の姿を明確にし、授業実践を積み重ねてきた。目指す児童生徒の姿を明確にすることにより、それぞれの授業改善に役立てることができた一方で、評価の工夫が必要である、深い学びについては具体的にイメージしにくいので、更なる研究が必要であるなどの課題も明らかとなった。

そこで本年度は、昨年度と同じ研究主題で、教科を小学校国語科と中学校外国語科（以下国語科、外国語科）に絞って深い学びについての研究を進めていくことにした。

理論研究では、国語科、外国語科における「主体的・対話的で深い学び」について具体的な姿などを整理し、「深い学び」につなげるための手立ての工夫について考えることとする。授業実践では、国語科と外国語科の授業研究を中心に、「各教科における見方・考え方」を働かせながら「深い学び」につながるような手立て等が有効であったかなどを検証していきたい。

このような研究を通して、高原町の教育目標「心身の教育を基盤にした学力向上とふるさと教育の充実」の具現化を図っていきたい。

III 研究目標

主体的・対話的で深い学びのできる児童生徒を育成するために、国語科、外国語科での「深い学び」につなげる手立ての在り方を究明する。

IV 研究仮説

国語科、外国語科において、目指す児童生徒の姿を整理し、それを意識しながら「深い学び」につなげる手立てを授業で行えば、主体的・対話的で深い学びのできる児童生徒が育成できるであろう。

V 研究内容

1 理論研究

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」における目指す児童生徒の姿（国語科・外国語科）
- (2) 「深い学び」につなげる手立ての工夫

2 授業研究

- (1) 「深い学び」につなげるための指導法の工夫
- (2) アンケートによる検証

VI 研究の実際

1 理論研究

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」における目指す児童生徒の姿（国語科・外国語科）

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、新学習指導要領解説・総則編に示されており、それをもとに、昨年度本研究所では、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を次のように捉え、具体的な児童生徒の姿を整理した。

	それぞれの学びのイメージ	具体的な児童生徒の姿
主体的な学び	○ 目的意識をもって、自分の意思で決定・行動し、自分のこととして問題をとらえ、自分のこととして取り組んでいる。	○ 忘れ物をせず、進んで考えたり自分の考えを表現したりしている。 ○ 問題解決に向けて見通しをもち、最後まで粘り強く学習に取り組んでいる。 ○ 学習活動や自分の学習状況を振り返り、次の学習への意欲と見通しをもつことができる。
対話的な学び	○ 話に一貫性や主張があり、双方向である。充実感があり、広がりや深まりがある。	○ 子供同士、教職員や地域の人との対話を通して、自分の考えのよさに気付いたり、新しい考え方に気付いたりしている。 ○ 対話に加えて、本を通して自分の考えをより妥当なものにしたり、新しい考えに気付いたりしている。
深い学び	○ 身に付けた知識・技能が互いにつながり、絡み合う。または身に付けた知識・技能を異なる場面や状況で活用でき、充実感や感動を味わう。	○ 既習事項や経験したことをもとに、問題解決を図っている。 ○ さまざまな情報を関連付けて考えている。 ○ 感性を働かせて、自分の思いや考えを創造している。

更に本年度は、国語科、外国語科で目指す児童生徒の姿を次のように整理した。

【「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の具体的な児童生徒の姿】
(国語科・外国語科)

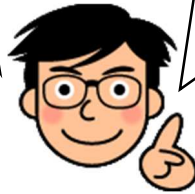
	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
小学校 国語科	○ 課題に対して目的意識をもって学習に取り組んでいる。 ○ 何度でも文章を読み直し、解決しようとしている。 ○ その単元のゴールをイメージし、何を学ぶのかが分かっている。	○ 自分の思いや考えを言葉で表すことができる。 ○ 自分と他者との考えを比較し、共通点や相違点を見つけることができる。 ○ 他者の考えを基に、自分の考えを明確にしたり、修正したりすることができる。	○ 既習事項や自分の体験等と関連付けて考えることができる。 ○ ノートやワークシートなど自分が学んだことを振り返り、理解しなおしたり表現しなおしたりすることができる。
中学校 外国語科 (読むこと) (書くこと)	○ 目的意識をもって、自分のこととして読んでいる。 ○ 「キーワード」や「タイトル」を考えながら本文を読んでいる。 ○ 自分自身の学習を振り返ることができる。	○ 書き手と自分の意見を比較しながら読むことができる。 ○ 書き手との対話や読み取ったことから、自分の考えを書くことができる。 ※書き手・・・筆者や友だち	○ 既習事項や自分の経験をもとに、書いたり読んだりすることができる。 ○ 読み手に配慮して、感想・賛否やその理由を書くことができる。

(2) 「深い学び」につなげるための手立て

「深い学び」につなげるための手立てとして、国語科と外国語科では以下のような手立てを考え、児童生徒の実態等を踏まえて、授業で具体的な実践を行うようにした。

【国語科では・・・】

- これまでの学習で読み取ったことや考えたことがすぐに確認できたり、考えの手掛かりを選択したりできるように、ノート、掲示物等を蓄積していく。
- 本単元と関連が深い既習事項について、単元や授業の導入で確認する。



【外国語科では・・・】

- 会話が続けられるよう、既習の慣用表現やつなぎ言葉などを例示する。
- 実際のコミュニケーションの場面に近づけた必然性のある言語活動を設ける。
- 想起される事柄を整理する活動を行い、自分の意見をまとめる時間を確保する。

2 授業研究

(1) 「深い学び」につなげるための指導法の工夫

授業実践を進めるにあたり、児童生徒の実態を把握するためにアンケートを実施した。以下がその結果であり、授業実践を通して、手立てが有効であったかを検証することとした。

	質問項目	いつも できている	ときどき できている	あまり できていない	ほとんど できていない
1	今まで習ったことを思い出しながら、あきらめずに問題をとこうとしていますか。	6 1	6 1	1 2	3
2	自分の考えをノートやプリントに書いていますか。	7 0	4 3	2 1	3
3	授業中に進んで発表や発言をしていますか。 (ペア学習やグループ活動での発言なども入れる)	4 7	5 0	2 5	1 5
4	自分の考えを分かりやすく伝えることができますか。	3 9	7 1	2 0	7
5	友達や先生の説明を聞いて、自分の考えと同じところ、ちがうところ、自分や友達の考えのいいところを見つけることができますか。	5 5	5 9	1 7	6
6	これまでに習ったことや自分がやったことのあること、知っていること、資料などを関連づけて課題を解決しようとしていますか。	4 4	6 7	1 9	7



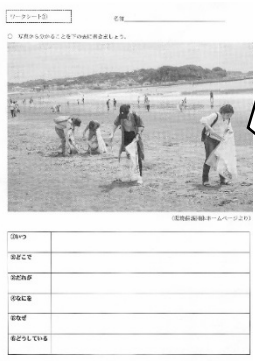
1～3は「主体的な学び」、4～5は「対話的な学び」、6は「深い学び」
(高原町内の小学生69名、中学生68名を対象に実施)

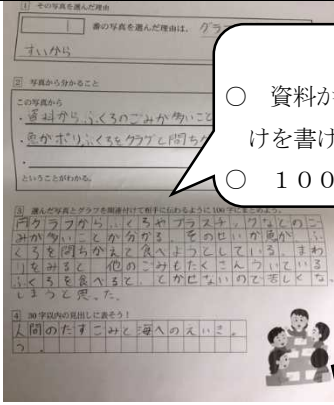
① 小学校 国語科

第5学年の国語科「資料を生かして考えたことを書こう」において、「書くこと」の単元における「主体的・対話的で深い学び」を意識した検証授業である。

単元名	資料を生かして考えたことを書こう（全5時間：本時3／5）
本時の目標	○ 資料から読み取ったことを協働して記事作成メモにまとめることができる。

ア 授業の実際


<p>主な学習内容及び学習活動</p> <p>情報の分析・評価・論述</p> <p>1 複数の資料から共通するものは何かを考える。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>④ 資料から分かることを書こう。</p>	<p>主体的な学び、対話的な学び、深い学びにつなげる手立て</p>  <p>【深い学び】につなげる手立て</p> <p>○ 複数の写真の共通点は何かを考えさせることで、複数の資料を関連付けることの大切さに気付かせるようにする。</p>
<p>考え方の形成</p> <p>3 資料から情報を読み取り、分かることを適切に書く。</p> <p>○ いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どうしている</p> <p>双方間のディスカッションによる学び合い</p> <p>4 資料同士を関連付けて、環境についての記事作成メモをまとめる。</p> <p>【グループ活動】</p> <p>○ 写真を選択した理由</p> <p>○ リード文（100字）</p> <p>○ 見出し（30字以内）</p>  <p>【協働して記事作成メモを作成する様子】</p>	<p>資料を読み取る ワークシートの工夫</p>  <p>【主体的学び】につなげる手立て</p> <p>○ 5W1Hの形式で写真の情報を読み取らせ、記事作成の際の視点について理解が深まるようにする。</p> <p>【対話的な学び・深い学び】につなげる手立て</p> <p>○ 協働して記事作成メモを作成することで、「どのように書くと分かりやすいのか」、「相手にも伝わりやすいのか」について友だちと自分の意見とを比較しながら考えを深められるようにする。</p>



5 リード文と見出しを発表する。

【深い学び】につなげる手立て

- 資料から読み取ったことを100字にまとめさせることで、必要な情報だけを書けるようにする。
- 100字に要約した文章の中のキーワードを使って見出しを書かせる。



グループでの発表により、自信をもって伝えることができた。

新たな問いへの気付き

6 本時の学習を振り返り、次時への見通しを立てる。

深 環境問題は身近なものであることに気付かせるようにする。

イ 児童の意識の変容

質問		いつもできている		ときどきできている		あまりできていない		ほとんどできていない	
		前	後	前	後	前	後	前	後
		主体的な学び	今まで習ったことを思い出しながらあきらめずに問題をとこうとしていますか。	2	1	2	1	1	0
自分の考えをノートやプリントに書いていますか。	3		4	0	1	2	0		
授業中に進んで発表や発言をしていますか。	3		4	1	0	1	1		
対話的な学び	自分の考えを分かりやすく伝えることができていますか。			2	5	2	0	1	0
	友だちや先生の説明を聞いて、自分の考えと同じところ、違うところ、自分や友だちの考えのよさを見つけることができていますか。	2	1	3	4				
深い学び	これまでに習ったことや経験、資料を関連づけて課題を解決しようとしていますか。	0	4	0	1	2	0	3	0

ウ 成果と課題 (○・・・成果、●・・・課題)

- 導入段階で、学習内容が自分達の身近な生活と関連したものであることを理解させることが出来た。
- ワークシートの工夫により、条件に応じて自分の考えをまとめる力がついた。
- 複数の資料を関連させて考えさせるための視点を事前に指導する必要があった。

※ 参考資料

- <https://uminohi.jp/> 日本財団海と日本 PROJECT






② 中学校 外国語科

第1学年の外国語科で「主体的・対話的で深い学び」につなげる検証授業を行った。

PROGRAM7 “The Wonderful Ocean”の単元における本文読解を取り扱った授業である。

単元名	PROGRAM7 (The Wonderful Ocean) (全6時間：本時5 / 6)
本時の目標	○本文のタイトルを選び、その理由を伝えようとする。 ○本文を読み、学んだことや新たに知ったことを書こうとする。

ア 授業の実際

主な学習内容及び学習活動	主体的な学び、対話的な学び、深い学びにつなげる手立て
<p>1. 本文を黙読する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>What is this?</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>Who is this orca?</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>Who is A? Who is B? A baby or a mother?</p> </div>	<p>主 本文を黙読し、本文の内容を理解させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文を読む前に、本文を読んだ後に答える質問を全体で確認した。あらかじめ質問を提示することで、読む視点を与えることができた。読む視点(=目的意識)があることで、答えを探しながら読もうとする「主体的な学び」につながった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>タイトルとしては 1. Family (家族) 2. Love (愛) 3. Bonds (絆) の3つを提示した。</p> </div>
<p>2. 本文の内容を確認する。</p> <p>(1) 本文の登場人物や内容の確認をする。</p> <p>(2) 本文のタイトルを選び、その理由を考える。</p> <p>(3) ペアで本文のタイトルについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>対話的な学びにするために、会話例を提示して全体で練習させた。</p> <p>A: Which title did you choose? B: I chose No.○. A: Why did you choose No.○? B: (理由) A: I see.</p> </div>	<p>主 本文の内容に合ったタイトルを選択肢から選ばせ、その理由を考える。</p> <p>対 なぜそのタイトルを選んだかをペアで話し合う。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>
<p>3. 本文から学んだことについて意見を書く。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>A: What did you write? B: (書いたことを日本語で伝える。) A: I see. B: How about you? A: (書いたことを日本語で伝える。) B: I see.</p> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>ここでは、「深い学び」をねらいとしたが、お互いの意見を伝え合う「対話的な学び」も取り入れた。</p> </div>

<p>【生徒の書いた内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような時でも親は子どもと一緒に行動することが分かりました。 ○ ニックは家族思いだと感じました。 ○ 母親のシャチが子どもを守りたいという気持ちが伝わりました。 	<p>深 本文から感じたこと、新たに知ったことを書かせる。</p> <p>本文を深く読ませることで、「シャチの家族愛」を読み取らせることができた。</p>
<p>4. 本時の振り返りをする。</p> <p>【生徒の書いた内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ～～さんが、本文のタイトルの3番を選んだ理由を聞いて、そのような考え方もあるのだなと思いました。 	<p>主 本時の自分自身の学習について振り返らせる。</p> <p>ペアなどでのやり取りを通して、自分の考えとは異なる意見を聞き、新たな考え方もたせるという深い学びにつなげることができた。</p>

イ 生徒の意識の変容

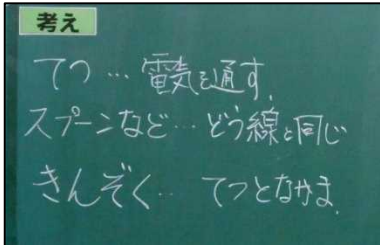
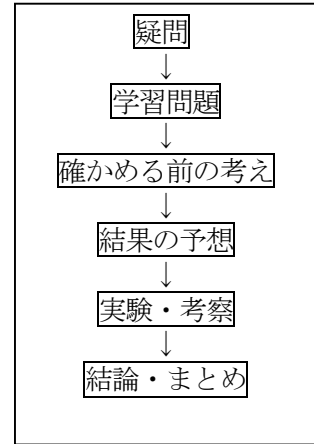
質問		いつもできている		ときどきできている		あまりできていない		ほとんどできていない	
		前	後	前	後	前	後	前	後
		主体的な学び	今まで習ったことを思い出しながらあきらめずに問題をとこうとしていますか。	17	20	28	33	6	4
自分の考えをノートやプリントに書いていますか。	25		43	18	12	10	2	0	0
授業中に進んで発表や発言をしていますか。	15		33	16	22	14	2	8	0
対話的な学び	自分の考えを分かりやすく伝えることができていますか。	12	24	27	31	10	2	4	0
	友だちや先生の説明を聞いて、自分の考えと同じところ、違うところ、自分や友だちの考えのよさを見つけることができていますか。	12	22	31	26	6	8	4	1
深い学び	これまでに習ったことや経験、資料に関連づけて課題を解決しようとしていますか。	13	20	26	31	12	6	2	0

ウ 成果と課題 (○・・・成果、●・・・課題)

- 本文読解後に答える質問を事前に確認することで、どのような視点で読めばよいか、という目的意識をもたせることができた。
- 本文のタイトルを選ぶことで思考が深まった。必然性のある問題だったので、生徒にとって深い学びになった。
- ペアでの「対話的な学び」を取り入れることで、最後の振り返りの際に「○○さんの意見の考え方もあることに気付いた。」というコメントがあり、深い学びにつなげることができた。
- タイトルや本文からの学びを書かせる際に、本文の単語などを根拠として考えさせればよかった。
- 最後の振り返りでは、生徒がそれぞれの視点で書いていた。そのため、教師側から書く視点を与えるべきだった。

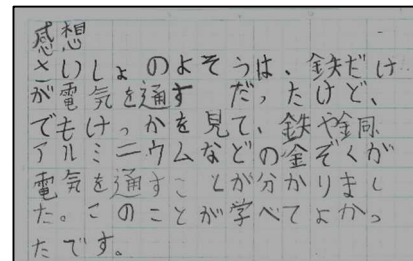
③ 導入段階での工夫例（小学校3年 理科）

見通しをもって深い学びにつなげるために、図1のように、学習問題から確かめる前の考えをもたせ、その考えをもとに実験結果を予想させるという学習の流れを設定した。写真1～3は、第3学年「電気で明かりをつけよう～電気を通す物・通さない物～」の実践事例である。



【写真1：確かめる前の考え】 【写真2：考えをもとに結果の予想】 【図1：学習の流れ】

電気を通す物は「鉄」や「金属」であると考えた児童は、提示した実験道具の中で、銀色っぽい物は電気を通し、それ以外は電気を通さないと予想し、比較しながら主体的に考えることができた。また友達の前予想と比較することで対話的な学習活動が生まれた。振り返る活動では、写真3のように自分の予想と分かったことを比較し、さらに深く考えるようになった。確かめる前の考えと考えをもとにした結果の予想という見通しをもった学習活動が、深い学びにつながった。



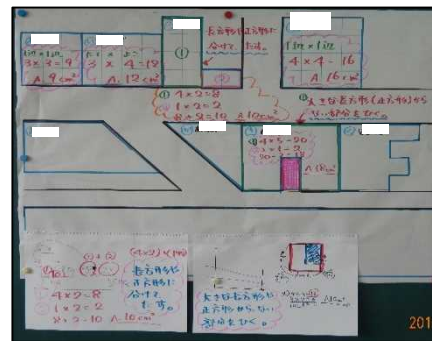
【写真3：児童の振り返り】

④ 展開段階での工夫例（小学校4年 算数科）

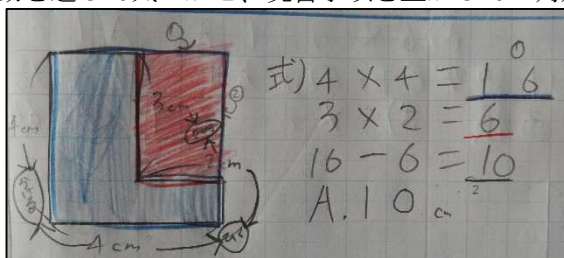
「面積」の学習では、導入時に架空の地図を見せ、空いている土地を自分の土地にしたいと話をし、それぞれ自分の土地を決めさせた。その後、土地の面積を求める学習を展開していった。

L字型やM字型の面積を求める学習では、既習事項（正方形や長方形の求積）をもとに、分解して問題を解く児童が多く見られた。1名だけ、「大きな長方形から、ない部分を引く」という方法で解いており、話合いで考えを発表すると、「お～。」

「なるほど。」などの声上がり、多様な考えに触れることができた。地図には、正方形や長方形に挟まれた土地をあえてL字型にし、児童が考える時に見やすいようにした。また、三角形の面積は第4学年の学習内容ではないが、長方形の半分になっているということに操作活動を通じて気づかせ、既習事項を生かして三角形の面積も求めることができた。



【学習で使った地図】



【L字型の求積の児童の考え】



【三角形の求積を説明する児童】

⑤ 展開段階での工夫例 (中学校3年 社会科)

裁判所の仕組み・種類・裁判員制度の授業を行い、基礎的知識を身に付けた上で実践的な授業である「模擬裁判」を行った。



【写真1 模擬裁判の様子】

- ① 有罪か無罪か個人で考えた後、他者の意見を聞く時間を設けた。
- ② タイミングを図りながら視聴覚教材で判決のポイントを示した。

【図：手立て】

《根拠》
あやしい点はたくさんあるけど有罪になる確実な証拠がないから無罪だと思う。

【生徒のワークシート】

図の手立てを行ったことで意見交換前と後では判決が変わった生徒がいた。また、生徒主体の授業を展開したことで、自分たちで決定的な証拠を探したり、一つの結論を出すための論理的思考力が働いたりした。

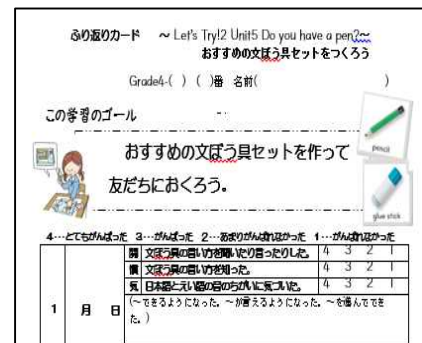
⑥ 終末段階での工夫例 (小学校4年 外国語活動)

第4学年における「Let's Try!2 Unit5 Do you have a pen? おすすめの文房具セットを作ろう」の学習では、深い学びにつなげるため、視点をもって振り返らせた。

(参考：赤江小 岩切宏樹指導教諭の実践)

振り返りの視点

関心・意欲・態度 外国語への慣れ親しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・～ができるようになった。 ・～が言えるようになった。 ・～が進んでできた。
言語や文化に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・～を初めて知った。 ・～が心にのこった。 ・～がむずかしかった。

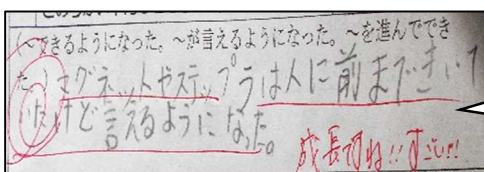


【振り返りカード(1単元1枚)】



【振り返りを書く様子】

文末を指定することで、目標に沿った振り返り活動を行うことができていた。本時の学びを客観的に振り返らせることで深い学びにつながった。また、次時の導入で振り返りの言葉を紹介することで主体的な学びにもつながった。



【児童の振り返り】

英語表現に慣れ親しんだことを振り返り、「自信」を高めていた。

VII 研究の成果と課題

(1) 成果

12月に2回目のアンケートを実施した。その結果は以下の通りである。

(「できている」の人数は、「いつも」・「ときどき」の合計)

	質問	できている (人)	
		1回目	2回目
主体的な学び	今までに習ったことを思い出しながらかきめずに問題をとこうとしていますか。	122	135
	自分の考えをノートやプリントに書いていますか。	113	130
	授業中に進んで発表や発言をしていますか。	97	130
対話的な学び	自分の考えを分かりやすく伝えることができているか。	110	130
	友達や先生の説明を聞いて、自分の考えと同じところ、ちがうところ、自分や友達の考えのいいところを見つけることができているか。	114	126
深い学び	これまで習ったことや自分がやったことのあること、知っていること、資料などを関連づけて課題を解決しようとしていますか。	111	127

- 「深い学び」につなげるための手立てを整理したことで、授業を構想・展開するときに、それを意識することができ、授業改善に役立てることができた。また、昨年度の研究を踏まえ「深い学び」へ焦点を当てることで研鑽を積むことができた。
- 小学校国語科と中学校英語科の研究授業の指導案に「深い学びの手立て」について記したことで、授業者が研究の主題に沿った授業を展開できた。
- それぞれの段階で講じた様々な手立てが有効であったことが分かった。
- アンケートを実施することで、児童生徒の学びに向かう意識の高まりが見られた。

(2) 課題

- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」についての具体的な児童生徒の姿を教師、児童、生徒が共有できるような手立てが必要であり、またそれらを町内の先生方へ授業実践例等を通して発信し、共有していく必要がある。

○ 参考文献

- ・ 「小学校学習指導要領」 平成29年7月 文部科学省
- ・ 「中学校学習指導要領」 平成29年7月 文部科学省
- ・ 「平成30年度 調査研究報告書・教育研究論文集」 平成31年2月 高原町教育委員会
- ・ 「平成30年度 宮崎県教育研究機関連絡協議会 研究収録」

平成31年2月 宮崎県教育研究機関連絡協議会

○ 研究同人

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
教育委員会	所長	西田 次良	狭野小学校	研究員	米村 彰
教育総務課	研究指導員	田鍋 友皇	後川内小学校	主任研究員	森 茂人
高原小学校	研究員	茅野 聡美	高原中学校	研究員	村橋 眞子
広原小学校	研究員	山下 真代	後川内中学校	研究員	中村 春香